本県工業教育の更なる充実と発展のために

～『「思考力」、「判断力」、「表現力」の育成』そのための『言語活動の充実』～

山形県教育庁高校教育課 主任指導主事 高橋良治

日ごろ本県工業教育の充実に御尽力いただき感謝申し上げます。

本年度もこれまで、各校の御努力により、「生きる力」を育む創意に富んだ教育実践が展開され、ものづくり活動や資格取得などの取組みを通じ、数々の成果を上げていただきました。これらの成果は、先生方が工業教育に気概を持ち、生徒とのかかわりを大事にし、丁寧かつ熱心に御指導いただいているおかげであり、先生方の御尽力に改めて感謝申し上げます。また本年度は、特別研究委員会が設けられ、「特色と魅力ある本県工業教育の在り方」を研究主題とし、地域社会・産業のニーズに応える工業教育について研究がなされ、その成果が期待されるところです。

さて、本年度から完全実施されている新学習指導要領の目玉は、『「思考力」、「判断力」、「表現力」の育成』そのための『言語活動の充実』です。これからの新しい時代を「生き抜く力」を身に付けていく上で、一番大事なものは、自分の頭で多角的にしっかりと考える力を育てることです。また、変化の激しい社会の中にあっては、身に付けた知識はどんどん陳腐化していきませんが、そうした中にあっては、一生涯にわたって学び続けていく意欲や姿勢を持つことが非常に大事になってきます。一時的に詰め込んで、その後すぐに剥落してしまうような知識や技術の習得ではなく、後から必要に応じて活用できる知識や技術の獲得が求められると言えます。これらのことは、世界の国々が持つ共通の認識であり、言語活動が重視されるのは、このような新しい社会を生き抜く力を育成する上で欠かせないものだからです。聞く・読む・考える・話す・書くというプロセスを通じて、一人一人がしっかりと自分の頭で考え、他者とともにそれらを共有しながら、考えを発展させていく、それが言語活動のねらいです。ものづくりを柱とした工業教育の場でも、このことを意識的に実践し、「思考力」「判断力」「表現力」等の力を育むための学びのスタイルを探求していただきたいと思います。

また、平成25年4月に出された中央教育審議会答申（第2期教育振興基本計画）の中では、高まるイノベーションへの対応が掲げられております。工業教育においても、電子回路を印刷する技術、クモ糸繊維等の新素材の開発、3Dプリンターの活用などに着目し話題とするなど、生徒の学習意欲を高める工夫が必要だと思われまます。

さらに、これまで以上に、社会とのかかわりが重視されている中、PISAなどの国際比較で生徒の状況を見てみると、日本の生徒は、「社会とのかかわり」、あるいは「自分がかかわることで社会がよくなる」という認識が諸外国と比較して低い状況にあります。自分たちがこれからの社会を作っていく主役だということを、生徒一人一人にしっかりと認識してもらい、工業教育をとおしてそれを担っていきけるだけの力をつけていくことが求められています。そのためには、「日々学んでいる工業技術や知識が、社会にどうつながっていくのか」、「将来、自分が社会をどのように支え、また、社会をより良いものにしていく上でどうかかわっていかなければいけないのか」といったことについて、生徒が常に意識できる工業教育を創造・実践していただきたいと思ひます。

今後とも、魅力と活力ある本県工業教育の更なる充実と発展のために、皆様の一層の御理解と御協力をお願いいたします。